

## 2016 度 小委員会活動成果報告

(2016 年 1 月 6 日作成)

小委員会名	持続再生景観小委員会	主 査 名：浅野 聡 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画本委員会	委員長名：鶴 心治 主 査 名：
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「景観法 10 年の検証」をテーマにして、景観法を中心とした景観まちづくりのあり方を検証し、直面する課題と課題解決のための提案を行う。</li> <li>・地域再生に向けた景観まちづくりの技術と制度の新たな展開方針を分析する。</li> <li>・景観ルックインを開催する。(於：大牟田市)</li> <li>・公開研究会を開催して最終的な研究成果の報告の場とする。</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 (5 名の委員公募を実施) 浅野 聡 (三重大学)、志村秀明 (芝浦工業大学)、大影佳史 (関西大学)、宇於崎勝也 (日本大学)、阿部大輔 (龍谷大学)、大野 整 (都市環境研究所)、岡田雅代 (おかだプランニングラボ)、嘉名光市 (大阪市立大学)、川島和彦 (日本大学)、栗山尚子 (神戸大学)、佐藤宏亮 (芝浦工業大学)、鶴田佳子 (岐阜工業高等専門学校)、原田栄二 (東北大学)、三宅 諭 (岩手大学)、宮脇 勝 (名古屋大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2016 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://keikansyouiinkai.jimdo.com/">http://keikansyouiinkai.jimdo.com/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	8 回 (拡大幹事会を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	『景観計画と景観まちづくり』(書名は検討中)、森北出版、 2017 年 3 月に刊行予定
講習会	参加者数 名
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 景観ルックイン(「大牟田市の世界遺産(産業遺産)を活かしたまちづくり」、見学会ならびにミニシンポジウム) 8 月 23 日 参加者数 36 名 (見学用地図、講師のレジュメ等の資料を配付し、ミニシンポジウムを開催) 2. 公開研究会(景観法 10 年の検証Ⅳ -景観計画の成果・課題・展望-) 3 月 7 日 参加者数 50 名(予定)(本小委員会による研究成果の最終報告の資料を配付予定)
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 地域再生に向けた景観まちづくりの技術と制度の新たな展開方針の分析を行うことを目的として、①景観行政団体に対する景観法の運用に関する補足調査の実施、②景観ルックインの開催、③公開研究会の開催、に向けて議論を重ね、その実施と公開研究会時の配付資料の作成等を通じて当初計画を達成したものと考えている。 2. 特に(当初の計画にはなかった)全国の景観行政団体に対する 2014 年度の 1 次調査、2015 年度の 2 次調査、2016 年度の補足調査を通して、景観法の運用の特徴と課題を把握する有用なオリジナルデータを収集し、これをもとに専門書を刊行することができ、当初計画以上に目標を達成したものと考えている。
委員会活動の問題点・課題	1. 前年度と同様に委員会への委員の出席率は高く、熱心な議論が行われているが、小委員会の予算が削減されたため、交通費の支給が一人あたり 0～2 回程度しか出来ないため、特に遠方の委員の負担が大きくなっている。

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。